

検査結果の見方

判定区分	A	異常ありません。
	B	軽度の所見が認められますが、日常生活に支障ありません。
	C12/C6/C3	経過観察を要します。(それぞれ12ヶ月、6ヶ月、3ヶ月後に再検査を受けて下さい)
	C	日常生活上注意を要します。
	D	治療を要します。
	G	精密検査を要します。
	H	治療や経過観察をしている疾病については、主治医の指示に従って診療を続けて下さい。

身体計測	標準体重	BMI22の時の体重で、病気になる可能性が最も少なくなります。		
	BMI	肥満の判定に用いる体格指数。18.5未満が「やせ」、25以上が「肥満」です。		
	腹囲	へその高さで測定し、男性85cm・女性90cm以上で、内臓脂肪の溜まりすぎ(メタボリックシンドローム)が疑われます。		
視力	裸眼もしくは矯正視力(眼鏡、コンタクトレンズ使用)を測定します。			
眼圧	高値の場合、緑内障、高血圧、糖尿病などが疑われます。			
眼底	肉眼で動脈を確認できる部位です。動脈硬化、網膜剥離や白内障、緑内障の早期発見に役立ちます。			
聴力	1000Hz(人の声)、4000Hz(電話のベル)の音が聞こえるか調べます。			
血圧	収縮期血圧140mmHg以上または、拡張期血圧90mmHg以上で「高血圧」と判定されます。血圧が高いときは、自覚症状が無くても内科を受診しましょう。			
心電図	不整脈、狭心症(心筋梗塞)、心肥大、その他の心疾患を調べます。			
血液一般/鉄/血沈	白血球	細菌感染、炎症や白血病では増加。減少する病気もあります。		
	赤血球			
	血色素量	主に貧血の有無を調べるものです。		
	ヘマトクリット			
	MCV	貧血の種類診断に使用します。赤血球1個の平均的容積量です。赤血球の大きさの指標となるものです。		
	MCH	貧血の種類診断に使用します。赤血球1個に含まれる平均的血色素量です。		
	MCHC	貧血の種類診断に使用します。赤血球の一定容積に対する血色素濃度です。		
	血小板	血液を凝固させる働きがあり、減少すると出血しやすくなります。また、多すぎれば血栓ができてやすくなります。		
	血液像	好中球	感染症、炎症、白血病など	
		好酸球	花粉症、喘息、アレルギー性疾患	
		好塩基球	アレルギー反応	
		単球	結核などの感染症、膠原病など	
		リンパ球	ウイルス感染症、白血病など	
			で増加	血液中の白血球の種類は健康な状態では、ほぼ一定の割合で構成されるので、その割合の変化から病気を推測します。
血清鉄	鉄欠乏性貧血の診断などに用います。			
血沈	感染症、炎症性疾患、貧血等で亢進します。			
肝/胆/膵	総蛋白	低値で栄養不良、肝臓病、高値で膠原病が疑われます。		
	アルブミン	体内で最も多く、重要な血清蛋白。肝臓で産生されます。		
	A/G比	血液中の蛋白質の主なものアルブミンとグロブリンです。その比は肝疾患の状態の目安になります。		
	総ビリルビン	総ビリルビン上昇では、血液疾患と関係がある場合もあります。		
	直接ビリルビン	増加すると黄疸を呈し、肝炎、肝硬変、胆道の病気が疑われます。		
	AST(GOT)	主に肝臓の中に含まれている酵素で、肝炎などで細胞が破壊されると血中に遊出して		
	ALT(GPT)	増加します。ASTは心筋細胞にも含まれ、心筋梗塞の時にも増加します。		
	ALP	高値で肝機能の低下、胆汁うっ帯が疑われます。ALPだけが高値の場合は骨の病気が疑われます。		
	LDH	多くの臓器の細胞に含まれ、その臓器に障害があると増加します。		
	コリンエステラーゼ	低値で肝硬変、劇症肝炎、栄養不良、高値では脂肪肝が疑われます。		
	γ-GTP	高値で肝臓病、胆道の病気が疑われます。		
	アミラーゼ	高値で急性、慢性膵炎が疑われます。耳下腺炎などでも高くなります。		
	蛋白分画	血液中の蛋白質を分類し、その比率をみることで肝疾患やその他の疾患の鑑別になります。		
脂質	総コレステロール	高値で心筋梗塞、脳梗塞などの動脈硬化による病気が起こりやすくなります。		
	HDLコレステロール	低値で心筋梗塞、脳梗塞などの動脈硬化による病気が起こりやすくなります。		

脂質	non-HDL コレステロール	動脈硬化を起こさせると考えられるコレステロールの全体量 (総コレステロールからHDLコレステロールを引いたもの)
	LDLコレステロール	高値で心筋梗塞、脳梗塞などの動脈硬化による病気が起こりやすくなります。
	中性脂肪	アルコールの飲みすぎ、過食が疑われます。
糖代謝	血糖	高値で糖尿病が疑われます。
	尿糖	陽性のときは糖尿病が疑われます。
	HbA1c (NGSP)	過去1～3ヶ月間の血糖状態がわかります。
痛風	尿酸	高値で痛風や動脈硬化による病気が起こりやすくなります。
腎機能	尿素窒素	蛋白質の分解産物で腎機能障害があると増加します。脱水状態で増加することもあります。
	クレアチニン	蛋白質摂取の影響を受けない腎機能の指標。腎機能に障害があると増加します。
	eGFR	クレアチニンより精度の高い腎臓機能の指標。腎臓の機能が低下していると数値が低くなります。
電解質	ナトリウム	水分バランスの指標。高値で脱水、低蛋白血症、摂取過剰、内分泌疾患などが疑われ、
	クロール	低値で消化管液の漏出(嘔吐、下痢)、ネフローゼ症候群などが疑われます。
	カリウム	嘔吐、下痢などで低値になり、高値で腎不全の疑いがあります。
	カルシウム	高値で甲状腺機能亢進症、ビタミンD中毒、低値で副甲状腺機能低下、ビタミンD欠乏が疑われます。
尿一般	比重	尿中の成分や体内の水分量に影響を受けます。 腎機能不全などで低くなり、糖尿病、ネフローゼ症候群などで高くなります。
	潜血	陽性の時は、腎、尿管、膀胱の異常が疑われます。
	ウロビリノーゲン	肝障害で陽性になることがあります。
	蛋白	腎炎、腎盂腎炎、ネフローゼ症候群などで陽性になります。 激しい運動後やストレス、女性では、月経時に陽性になることがあります。
	PH	高値で腎盂腎炎や尿路感染症が疑われ、低値で糖尿病や脱水などが疑われます。
	尿沈査	尿中の細胞成分などを調べて、腎、膀胱の異常を調べます。
胸部X線		肺や心臓の異常を調べます。肺結核や肺気腫などの発見に役立ちます。
上部消化管		食道・胃・十二指腸の腫瘍、潰瘍、ポリープなどを発見します。
腹部超音波		肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓などに超音波をあてて、腫瘍、結石など種々の異常を調べます。
肺機能		肺の「換気機能」(空気の出し入れがうまくできているかどうか)を調べます。 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の発見・診断に必要な検査です。
免疫	CRP炎症反応	陽性のときは、体内に炎症や組織破壊のある病気が疑われます。
	RAリウマチ	慢性関節リウマチ、膠原病、結核などの疾患があると陽性を示すことがあります。
肝炎 ウイルス	HBs抗原	陽性の時は、B型肝炎ウイルスに感染していることを示します。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスの感染について調べます。
梅毒	TP抗体	陽性のときは梅毒に感染していることを示します。過去の感染でも陽性になります。
	RPR法	膠原病、ウイルス感染症、結核、肝臓病などでも陽性になることがあります。
便潜血		大腸がんを発見するための検査です。他に、炎症性疾患やポリープでも陽性になることがあります。
骨密度		骨密度の測定により骨粗鬆症を調べます。
前立腺	PSA	高値で前立腺肥大症、前立腺炎、前立腺がんが疑われます。
乳がん	マンモグラフィ	乳房を上下、または左右に挟んで乳腺をX線撮影する検査です。 触診ではわからない小さな石灰化を有し、腫瘍を形成しない乳がんの発見にも有効です。
	乳腺超音波	乳腺内の小さな腫瘍や乳管内の変化がわかります。
子宮がん	頸部細胞診	子宮頸がんの発生しやすい部位をこすり取った細胞を顕微鏡で見て、正常・異形成・悪性を判定します。
	内診	子宮の大きさ、向き、可動性、子宮頸管ポリープの有無、子宮口や膣などの状態を診察します。
	経膣又は 経直腸超音波	子宮筋腫や卵巣腫瘍、子宮内膜の肥厚やポリープの発見に役立ちます。
胸部CT		X線より詳しく肺や心臓の異常を調べます。肺結核、肺気腫や腫瘍などの発見に役立ちます。
腹部～骨盤CT		肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓などを調べます。子宮筋腫や前立腺肥大なども見つけることができます。
喀痰		肺結核、肺がんなどの肺疾患の診断に役立ちます。
頸動脈超音波		動脈硬化によって分厚くなった血管壁や血栓、石灰化などがわかります。
抗ヘリコバクターピロリIgG抗体		ヘリコバクターピロリ菌の感染を調べます。この菌は、胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎などの原因となり、胃がんのリスクも高めます。
甲状腺機能	FT3・FT4・TSH	甲状腺ホルモンなどを測定し、甲状腺機能の亢進や低下がないかを調べます。
心筋マーカー	CPK	筋肉に多く分布する酵素で、心筋障害やさまざまな筋疾患で上昇することがあります。